

Windows Server 2008 環境での導入時の注意

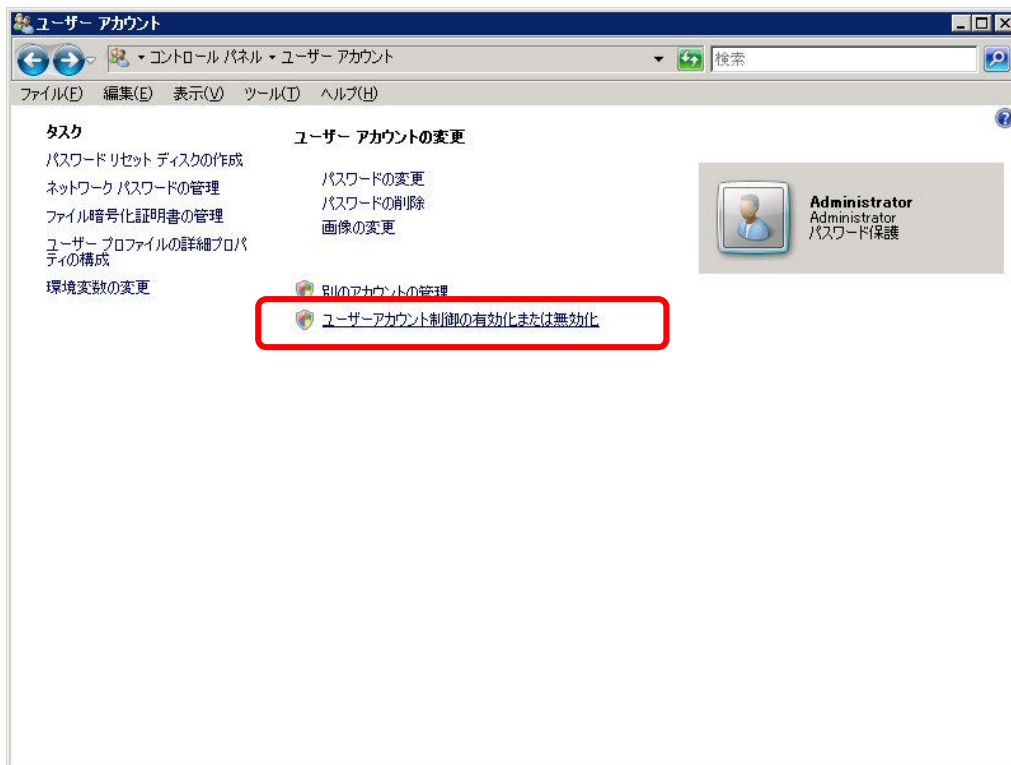
Windows Server 2008（x86 用の 32bit 版および 64bit 版）の環境で E-Post Mail Server シリーズ・E-Post SMTP Server シリーズ・E-Post BossCheck Server を導入するときは、Administrator でのインストール時、サービス起動時の権限（または利用制限）についての十分な確認が必要です。

Windows Server 2008 では、Windows Vista と同様、Administrator アカウントでインストール・動作させているときでも、User Account Control（UAC）が有効となっているときは、Administrator アカウントでもサービス登録や操作ができません。そのため、UAC を無効化してから、インストールや、プログラムの操作、サービスプログラムの起動を行う必要があります。また、Administrator ではない Administrator 権限の別名アカウントでインストールしたり、プログラムの操作やサービスプログラムの起動を行うときは、常に「管理者として実行」を選択して実行する必要があります。

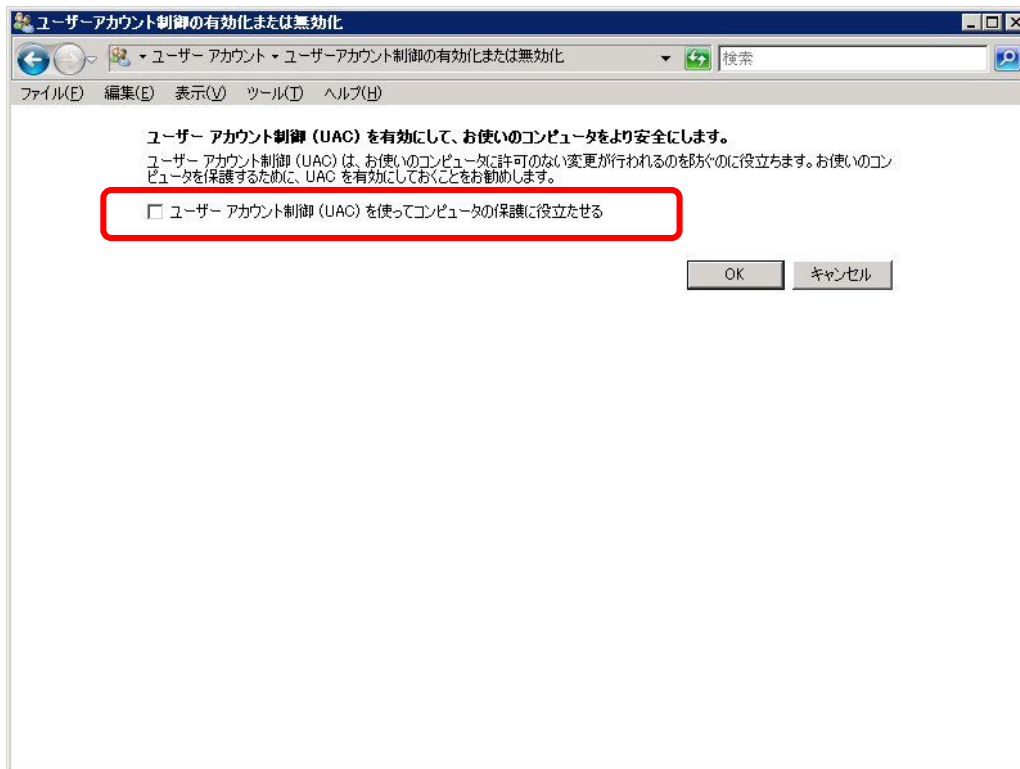
また、Windows ファイアウォールの設定で、E-Post Mail Server シリーズが使用するポートを設定することも忘れないようにしてください。

1. Windows Server 2008 環境に導入するための事前操作 [UAC の無効化]

(1) コントロールパネル → ユーザーアカウント → [ユーザーアカウント制限の有効化または無効化] を開きます。



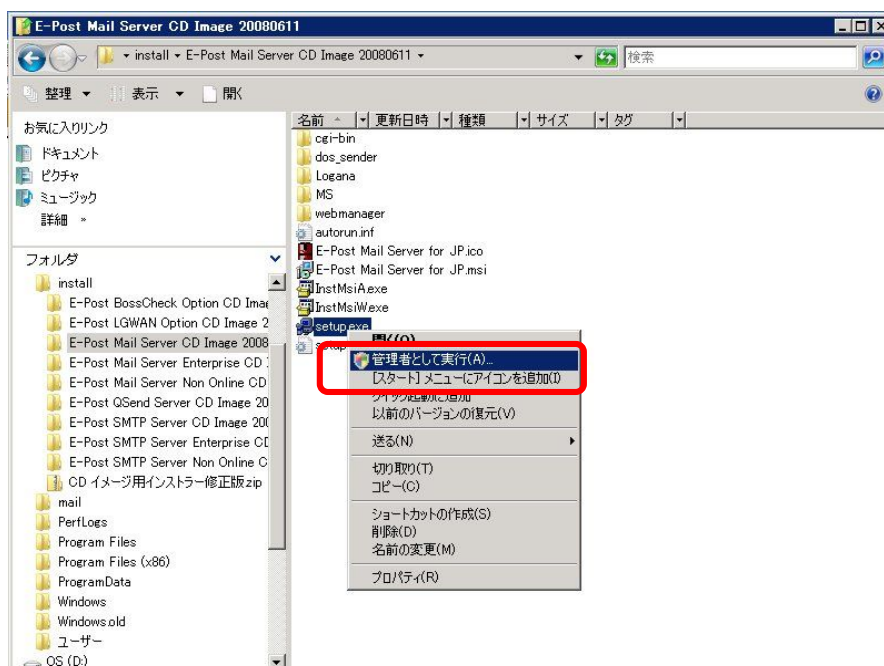
(2) [ユーザーアカウント制御(UAC)を使ってコンピュータの保護に役立たせる] チェックボックスをオフにします。



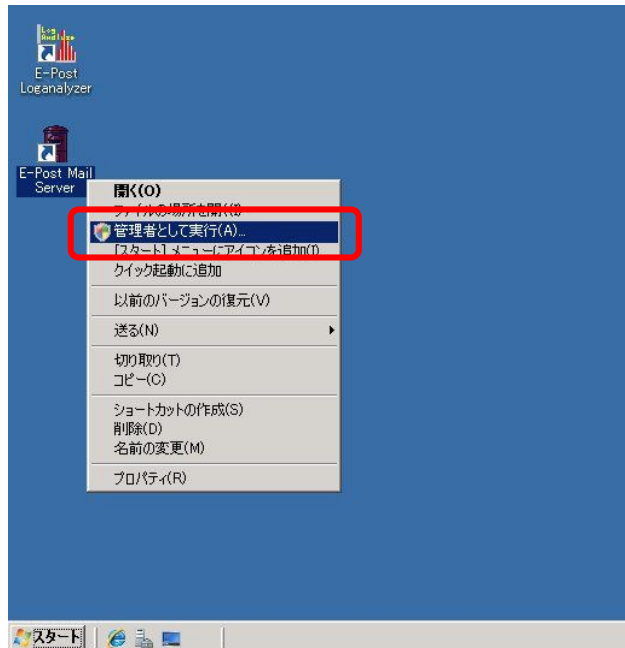
(3) [OK] ボタンをクリックした後、ウィンドウを閉じ、再起動します。

2. Administrator 権限の別名アカウントでインストール・実行するとき

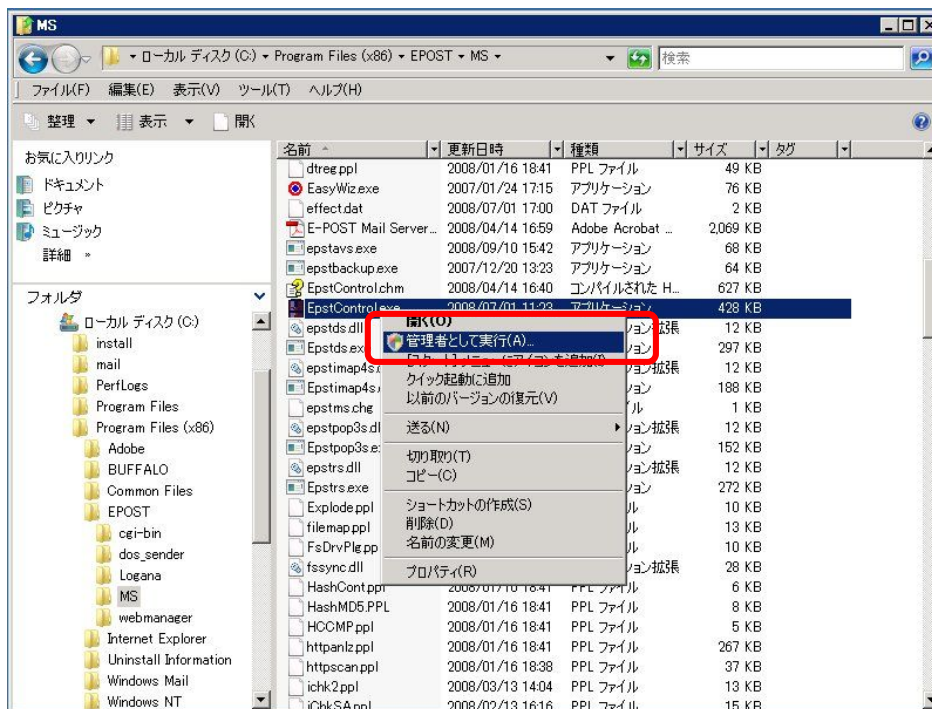
(a). Administrator 権限の別名アカウントでインストールする際、.msi ファイルや setup.exe を実行するときに右クリックメニューから、「管理者として実行」を選択して実行します。



(b). Administrator 権限の別名アカウントでインストールしたときは、Mail Control を開く際、Mail Server アイコンをダブルクリックして実行せず、右クリックメニューから「管理者として実行」を選択します。



(c). Administrator でインストールし、Administrator 権限の別名アカウントで登録・運用するときは、スタートメニューや、デスクトップ上のアイコンが登録されないため、インストールフォルダ内の"EpstControl.exe"を選択、右クリックメニューから「管理者として実行」を選択します。



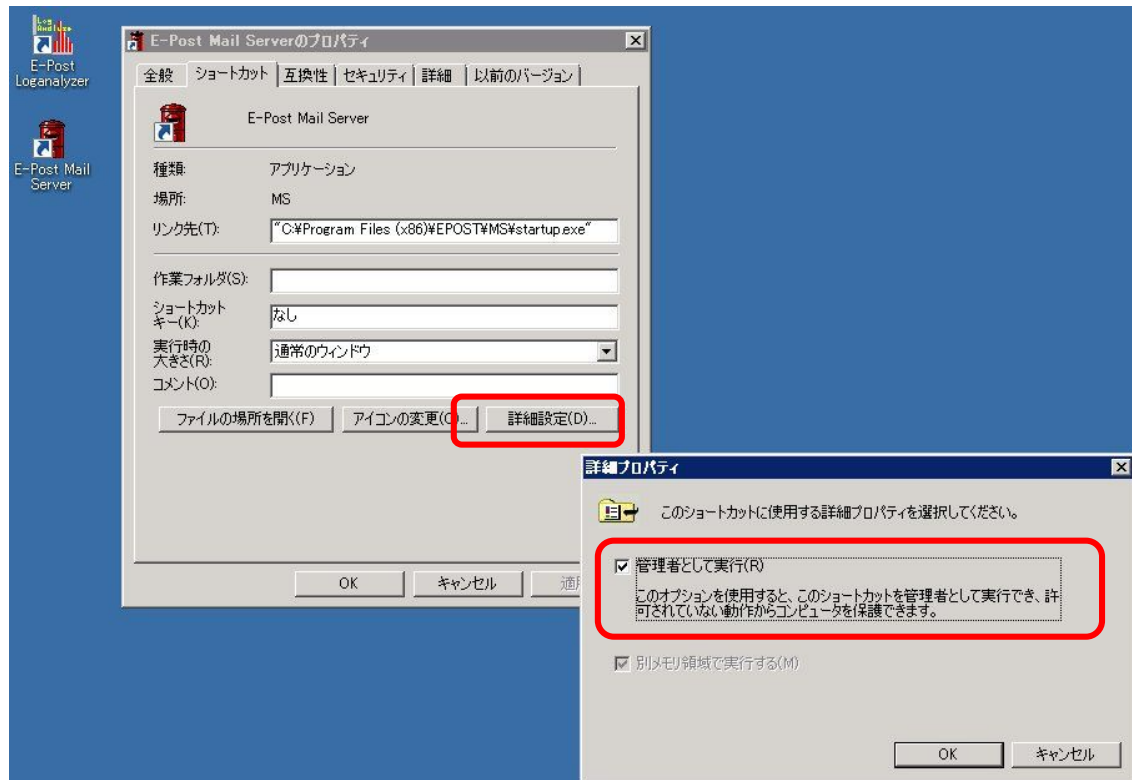
既定のインストールフォルダは、32bit 版では ”C:\Program Files\EPOST\MS” となり、64bit 版では、”C:\Program Files (x86)\EPOST\MS” となっています。

(d). 前述の(b)について、ショートカットアイコンのプロパティを常に「管理者として実行」する指定としておくには、次の操作を行います。

「E-Post Mail Server」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」を選択。

表示されるダイアログボックスの「ショートカット」タブを選択し、「詳細設定」ボタンをクリック。

「詳細プロパティ」ダイアログボックスの「管理者として実行」チェックボックスをオンにし、「OK」ボタンをクリック。プロパティのダイアログボックスも「OK」ボタンクリックで閉じる。



3. Windows ファイアウォールの設定

Windows ファイアウォールの設定を有効にしているときは、ポートの許可を設定します。Administrator アカウントでログインし、Windows ファイアウォールの設定を開きます。必要に応じて、SMTP (ポート番号 : 25) ・POP3 (同 : 110) ・IMAP4 (同 : 143) ポート の許可をそれぞれ追加します。サブミッション (Submission) ポートを利用するときは、587 も忘れないように追加するようにしてください。

